

# らいふわーくさぽーと通信

暖冬に終わりそうなこの冬、陽だまりにはオオイヌノフグリが青い小さな花をつけ、春の訪れを告げているこの頃です。今月は公立高校の入試もあり、中学生のご家庭の緊張の鼓動が聞こえてくるようです。

この3月、中学・高校・大学・専修学校等、様々な学生生活を終え、4月から新しい生活が始まるご家庭は、昨年から秋からの急激な経済変化によって、4月からの新しいスタートに、様々な形で不安を与えているのではないのでしょうか。親の就業状態から始まる家計不安、経済低迷からよぎる雇用不安は、明るいはずのこの季節も、曇りがちな気持ちになってしまいませんか。就職が決まった子供たちは「入社式まで俺の会社あるかな」と不安を冗談に変えて教室で漏らしていました。進学が決まった高校生も、これから始まる新しい生活が家族に不安を与えていることを知っています。家庭の経済格差が子供の学力とある

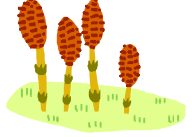
## 親として子供として “現在” と “未来” を見るとき・・・

程度比例しているという話はいまから言われています。高校・大学へ進学したいと言われれば「うちは貧乏だから駄目だ」と、すぐには答えられない親心もあります。子供の希望を叶えることが、そのまま子供の幸せに繋がっているような気がして・・・親としての責任がそこにあるような気がして・・・また社会一般の変化もあり、つい無理をしてみよう現実があるのではないのでしょうか。

年齢と共に移り変わる子供の生活の変化は、そのまま家族みんなの生活の変化となります。時には思い出しに浸り、時には未来を予想し、そして現実を見つめ考える・・・色々な形でそんな繰り返しが起こる巣立ちの春は、家族がお互いの存在を見つめ直し思いやる良い機会だと思えます。

紡いできた時間が、それぞれの価値観や未来となって見え隠れするそんな春は、一生のうちそう何度もやってくるものではありません。

発行 NPO法人 ライフワークサポート 諏訪市岡村2-13-19 Tel/Fax 0266-53-8433



【本の紹介】 暉峻淑子さん「豊かさへもうひとつの道」。暉峻さんの著書はいつも、平凡な生活の中に在る様々な価値に気付かせてくれます。ここには私達の生活に流れ込む様々な問題点が書かれています。こんな時代だからこそ忘れてはいけないこと、家族の在り方、自分の生き方を考えるきっかけが詰まっています。そしてこの暗い日本がどうして生まれたのか、これから何をすればいいのかなど、様々な視点で記してあります。人の考え方もいろいろですが、機会があれば手にして頂きたい1冊です。

### プライドは 経験から生まれる

麻生総理が定額給付金の受け取りに際して「人間の矜持の問題だ」と発言して話題になった事がありました。わかりやすく言うならば誇り・プライドの事だとか。

私も仕事をすることで葛藤があります。やりたいことやらなくてはいけないうちに「誤差」が生じる時、そこには少なからずプライドが顔を出します。プライドを削ると、そこには「妥協」が生まれま

「誤差」が生じる時、そこには少なからずプライドが顔を出します。プライドを削ると、そこには「妥協」が生まれま

「誤差」が生じる時、そこには少なからずプライドが顔を出します。プライドを削ると、そこには「妥協」が生まれま



### 教育は投資！と思いたけれど・・・

息子がこの春高校を卒業し、進学のために家を離れることになった。一人暮らしの準備は結構大変で、入学する前に親が干上がってしまうのでは・・・と思えるほどお金が出てゆく。仕送りをする親になって思うのは、奨学金はとってもらいたいが、お金でなく、学生の住居提供という形での支援があってもいいのではないかと。地域格差はあらゆるところにあるけれど、学びの機会は特に大きい。国力とは人力なり。学びたい人が学びやすい環境整備を国が考えて欲しいと思う。ヨロロッパの諸外国、羨ましい限り・・・

親の不安をよそに子供は新生活への期待感いっぱい。乾いた雑巾の如く、絞っても何も出ない私達の懐が見えるようだわ。

せめて「学卒無業にだけはならないで！」と祈りの日々が始まる・・・涙。(Y・Y)

### 数字ではない労働

地元の方とお会いしお話を聞くと、揃って口にはされることは厳しい時代ということ。しかし、どうにか切り抜けるように模索し努力されている姿があります。経済の視点では、労働者はただの数字に過ぎません。労働とは資本を生み出す手段で、労働の背景にある「人の生活」は無関係ということ。そのような考え方の結果が、今の大量失業です。

ヨロロッパ諸国では、経済力とはモノを安く大量に作るのではなく、働く人間の質の高さだと考えています。質の高さは、労働以外の日々の生活から生まれてきます。生きるために仕事をし

### 編集後記

百年に一度の不況と言われ、生きる難しさに直面している今、改めて「家族」を見直す時代が来ていると思えます。きれいな事ではなく、家族だからこそ言える愚痴、弱音、返せる冗談があります。お互い気にかけて合ったり一緒に悩んだり、そんな時間が明日への勇気や踏み張りにつながってゆきます。

大切なことは家族みんなの健康・・・厳しい世の中になって、最近特にそう感じるようになりました。

